

## 『平安朝の文学と装束』出版と愛知文教大学専任講師着任の挨拶

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉副代表理事の畠山大二郎でございます。

2016年2月に新典社より、拙著『平安朝の文学と装束』を出版いたしました。これは学位申請論文「平安文学の服飾表現研究」をもとに加筆修正を行い、新たに論文を加えたもので、2015年3月には博士（文学）の学位も取得いたしました。今振り返ってみますと、大学院に進学して以来、ただがむしゃらに走り続けてきた10年間だったように思います。研究の道を諦めようと思ったこともありました。しかし、厳しくも恵まれた環境であったからこそ、拙いながらも研究を進めることができたのだと思います。

これまでご指導くださいました先生方をはじめ、皆様に心より感謝申し上げます。

また、2016年4月より愛知文教大学人文学部人文学科専任講師に着任いたしました。愛知文教大学は、愛知県小牧市に所在し、語学力とともに日本文化教育にも力を入れている大学です。研究だけでなく教育という形で、微力ながら貢献できればと思っております。

拙著の完成と着任とが続きましてことに感謝し、ここにご報告申し上げます。今後は研究の質を向上させ、全力を尽くす所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(副代表理事・畠山大二郎)

## 第5回池田亀鑑賞 報告

畠山大二郎著『平安朝の文学と装束』に対して「池田亀鑑文学碑を守る会」より、第5回池田亀鑑賞が授与されました。

授賞式は平成28年10月1日（土）に、鳥取県日南町日南町役場交流ホールで行なわれ、受賞者の記念講演と共に、装束の着装実演が行なわれました。

今回は、池田亀鑑の生誕120年、没後60年という節目の年と重なり、意義深い式でした。

日南町の町長と町会議員がモデルだったこともあり、町民のみなさまが多く集まっておられた会場は、大いに盛り上がりました。



特定非営利活動法人 〈源氏物語電子資料館〉



ニューズレター 第3・4合併号

(平成29年2月4日発行)

## ご挨拶

代表理事 伊藤鉄也



平成25年1月に京都市より認証を得て設立した特定非営利活動法人〈源氏物語電子資料館〉（以下、NPO法人、本法人）は、おかげさまで4年目に入りました。順調に歩みを刻んでいることを、ここにご報告いたします。

本法人は、牛歩の歩みながらも、確実に一步一步前に進んでいます。果たすべき役割は、『源氏物語』の基礎資料となる物語の本文等をデータベースとして構築し、広く活用していただく環境を提供することを主とするものです。その自覚のもとに、会員のみなさまのご理解を推進力として、さらに活動の場を広げているところです。

目標の実現に向けて、本法人の定款を平成28年度より変更しました。

そのためにも、活動しやすい組織構成で有益なデータを作り、充実した勉強会や楽しいイベントを通して、『源氏物語』の普及活動を展開したいと思っています。

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉は、まだまだ小さな組織ながらも、さらなる展開の可能性を矯めているところだと言えます。

また、文化庁が東京から京都に移転することが決まりました。平安文学の舞台である京都市から認証を受けている本法人としては、移転して来る文化庁のお膝元で活動できるという、願ってもない快適な環境に身を置くことになります。本法人の活動も、こうした流れにうまく適応していきたいと考えています。

なお、本ニューズレターは、平成27年度と28年度の2年度分を、合併号として発行しました。活動記録と報告等で、盛りだくさんの内容で賑やかになっています。

本年も、変わらぬご支援のほどを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第1回 源氏物語散歩

京都の「ワックジャパンで源氏を読む会」では、平成27年10月10日に、第1回目の「源氏散歩」を行ないました。『源氏物語』の「桐壺」巻にゆかりの地である、平安京大内裏にあたる場所を歩きました。

「大極殿跡」に集合して、「南限跡・建礼門跡」から「紫宸殿跡」「清涼殿跡」「淑景舎（桐壺）跡」などを巡り、「町家ショップ&カフェ綾綺殿」で昼食。さらに足を延ばして「大蔵省跡・大宿直跡」まで行きました。大内裏周辺には平成20年に設置された「源氏物語ゆかりの地説明板」が20箇所以上あります。この日は半日で16箇所を巡ることができました。

現在、これらのゆかりの地は住宅地になっており、当時の名残はほとんどありません。しかし、歩くことで、大極殿から内裏までの距離や内裏の大きさを体感することができました。

(石田弥寿子)

桐壺跡の説明版が  
設置された小路



弘徽殿跡の説明版が  
設置された小路

## 平成27年度 活動報告

平成27年度(2015～2016)は、以下の活動を展開しました。

- (1) 京都と東京で展開する『源氏物語』の翻字方法を「変体仮名翻字版」に変更
- (2) 渋谷栄一氏より委譲の「源氏物語の世界」をNPO法人再編集版として公開
- (3) 中古文学会のフリースペースにてNPO法人の活動をパンフレット等で宣伝
- (4) 多言語翻訳のための現代語訳『十帖源氏』を補訂版に順次更新
- (5) 第3回総会を東京都中央区にある新富区民館で開催し新しい活動方針を確認
- (6) 鳥取県の日南町で開催された池田亀鑑賞の第4回目の授賞式を後援
- (7) 授賞式の後、NPO法人主催の「古写本を読み、池田亀鑑を追体験」を開催
- (8) 京都で源氏を読む会が主催する源氏散策(第1回目)を実施
- (9) 『歴博本「鈴虫」』(伊藤・阿部・浅川編)を「変体仮名翻字版」で刊行
- (10) 目が不自由な方々と一緒に古写本を読むことに取り組みイベントに参加

## 平成28年度 活動報告

平成28年度(2016～2017)は、以下の活動を展開しました。

- (1) 第4回総会を東京都中央区にある築地社会教育会館で開催し活動方針を確認
- (2) 京都市長宛「定款変更認証申請書類」を提出し無事認証後に変更登記完了
- (3) 日比谷図書文化館「古文書塾てらこや・翻字者育成講座」が本科コースに昇格
- (4) 変体仮名の啓蒙普及活動として新設の《仮名文字検定》開催に向けて協力
- (5) 池田本の校訂本文のために作成中の小見出し「帚木」巻と「若紫」巻が完成
- (6) 本会后援の池田亀鑑賞で第5回授賞者として畠山大二郎副代表理事が受賞
- (7) 鎌倉期写本『国文研蔵 橋本本『源氏物語』「若紫」』(伊藤・浅川編)を刊行
- (8) 多言語翻訳のための平易な現代語訳『十帖源氏』の新バージョンを公開
- (9) ニューデリーで開催された「第8回インド国際日本文学研究集会」を後援
- (10) 大島本に代わる池田本「桐壺」の校訂本文(試作印刷 第一版)を配布開始

※本法人のロゴマークが出来ました。



NPO法人

源氏物語電子資料館



## インドでの国際研究集会を後援

本法人では、平成28年11月11日・12日に、ニューデリーで開催された「第8回 インド国際日本文学研究集会」を後援しました。「『源氏物語』をインド7言語に翻訳するためのシンポジウム ―ダイジェスト版『十帖源氏』を世界33言語で翻訳するプロジェクト―」というテーマのイベントです。本法人からは、3名が最新の成果を報告しました。『十帖源氏』をマラヤーラム語・ヒンディー語・ウルドゥー語・パンジャービー語・ベンガル語・オディア語で翻訳する上での問題点が発表された後、それらの課題が2日間にわたって熱く討議されました。この国際研究集会の第9回は、平成29年秋にインド南部にあるハイデラバード大学で開催の予定です。



この国際研究集会の第9回は、平成29年秋にインド南部にあるハイデラバード大学で開催の予定です。

### 本NPO法人ご支援のお誘い

- |            |          |                  |
|------------|----------|------------------|
| (1) 正会員    | 入会金      | 10,000円 (学生は免除)  |
|            | 会費       | 10,000円/年        |
| (2) サポート会員 | 入会金      | 0円               |
|            | 会費 (登録料) | 5,000円/年         |
| (3) 賛助会員   | 入会金      | 0円               |
|            | 会費 1口    | 30,000円/年 (1口以上) |

※詳細は当会HP【<http://www.eonet.ne.jp/~genjiito/kouza.pdf>】で確認を。

◆連絡先・ホームページ・ブログ◆

電子メール：NPO 源氏・事務局【[npo.gem.info@icloud.com](mailto:npo.gem.info@icloud.com)】

ホームページ【<http://www.eonet.ne.jp/~genjiito/index.html>】

ブログ【<http://genji-e-museum.cocolog-nifty.com/blog>】

## 京都で『源氏物語』を読む会

京都御所の南にある京町屋の「ワックジャパン」で、『十帖源氏』を世界中の言語（33種類）に翻訳するための、わかりやすい現代語訳を作成する検討会を進めています。



第1回目は、本法人を設立してすぐの、平成25年4月6日（土）。立命館大学大学院生の川内有子さんがリーダーでした。その後、7月13日からハーバード大学蔵『源氏物語』「蜻蛉」巻を、写本の文字に注意しながら、字母を逐一確認して翻字をしていく学習会も、新たにスタートしました。変体仮名が読めるようになることを目的とする勉強会です。

共に毎回、『源氏物語』にゆかりのある和菓子をいただきながらの、楽しい学習会でした。秋岡さんからの四季折々の差し入れに感謝しています。



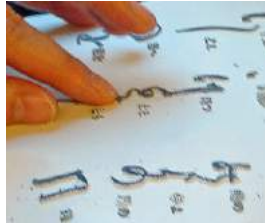
これまでに、『十帖源氏』の「須磨」巻と「明石」巻の現代語訳を終えました。ハーバード大学本「蜻蛉」巻は途中まで進んでいました。しかし、主宰者の伊藤が定年まで後1年となり、東京での用務を済ませて引き上げる準備に入ったこともあり、無理はせず一年ほど休むことになりました。誠に勝手ながら、ワックジャパンで源氏を読む会は平成29年3月までお休みです。

平成29年4月以降に、装いも新たに再開となります。どのようにして活動するかについては、その運営方針も含めて、関係者とさまざまな形態を検討中です。どうぞお楽しみに。

## 古写本や変体仮名を触って読む

目が見えない方々と一緒に、変体仮名を指で触りながら読めないか、というプロジェクトを展開しています。すでに2人の方が、鎌倉時代の写本に書かれた変体仮名を指で読んでおられます。本法人では、以下の活動を通じて「変体仮名の触読」に挑戦し、視覚障害者の支援に取り組んでいきます。

1. 『変体仮名触読辞典』の作成と活用法の試行
2. 写本『源氏物語』に書写された変体仮名の触読
3. 『点字版 古文学習参考書』の作成と学習法の確立
4. 立体触読シートを「音ペン」を使って耳で確認
5. 立体触読シートを「指筆」を使い習字の要領で学習
6. 京都府立盲学校や京都ライトハウスなどと連携した支援活動の展開
7. 点字百人一首の普及に取り組む「百星の会」の活動に参加して情報交換



## 日比谷図書文化館で読む『源氏物語』

東京駅にほど近い日比谷公園の中にある日比谷図書文化館で開講中の、古文書塾「てらこや」に名を連ねて、[翻字者育成講座]を開催しています。

これが、平成28年4月から本科コースとなり、歴博本「鈴虫」巻や橋本本「若紫」巻をテキストにして、変体仮名を読む技術の習得を目指しているところです。

[翻字者育成]と名乗っている講座ということもあり、みなさま熱心に翻字に挑戦しておられます。すでに7人の方が、本法人が取り組む『源氏物語』の本文のデータベース化に参加し、ご自宅で写本の翻字や入力をなさっています。

平成29年5月からは、本科5回コースとして月1回（第1 or 第2土曜日、午後2時半から4時半）の予定で開催します。多数の方のご参加をお待ちしています。

## ホームページサイトマップ

### 《メニュー・タブ》

#### ■ホーム■

▽トピックス・イベント情報

▽特定非営利活動法人〈源氏物語電子資料館〉とは

#### ■挨拶■

#### ■事業概要／計画■

▽事業概要→原点・事業内容・非営利活動・事業計画

▽事業計画→イベント／データベース構築／その他

#### ■活動報告■

#### ■支援者募集／会員HP■

▽支援者募集

- ・法人の入会案内
- ・会員の種別
- ・入会金および会費
- ・会員のHP ■お問合せ／リンク

#### ■お問合せ ▽リンク集■

### 《サブメニュー》

◎更新履歴

◎サブメニュー

新・定款

サイトマップ

設立趣旨書

申請までの経過

HP 更新情報

NPO 情報発信



## 《仮名文字検定》のご案内

《仮名文字検定》の第1回が2018年8月末に、第8回日本文学検定と同時開催となりました。本法人も積極的に協力しているものです。

- ◎主催：仮名文字検定委員会
- ◎協力：株式会社 新典社／NPO法人〈源氏物語電子資料館〉
- ◎公式ホームページ：<http://www.kanakentei.com/>
- ◎検定趣旨：《仮名文字検定》は、平安時代から伝わる平仮名を幅広く学び、その運用能力を高め、日本の古典文化を継承する中で、日本語の読解と表現世界を豊かにすることを目的として実施するものです。(中略)多彩な文字をちりばめて表現された、見た目にも美しい仮名文を読んで理解する能力を高めませんか。変体仮名を使った楽しい遊びの空間に身を置くこともできます。時代を超えて情報と気持ちを交わす技術を習得する上で、この《仮名文字検定》を豊かな日本文化の理解と継承の鍛錬道場として活用していただくことを望んでいます。なお、《仮名文字検定》では、点字と立体文字が触読できる視覚障害者も受験できる体制を用意しています。
- ◎開催場所：東京・京都
- ◎受験料：(個人・団体) 4,900円(学割・再受験 4,600円)(税込)
- ◎受験資格：学歴・年齢その他制限なく、どなたでも受験できます。  
※視覚障害者は、点字と仮名文字の触読による受験ができます。
- ◎合格(正解率)：新人級：60%以上／玄人級：70%以上／達人級：90%以上  
※試験で獲得した点数により、各級が決定される方式。
- ◎問題形式：全50問筆記(60分)
- ◎公式テキスト：『仮名文字の達人』(作成中)
- ◎関係者(敬称略、50音順)
  - ・監修者：高城弘一(大東文化大学)／高田智和(国立国語研究所)  
田代圭一(宮内庁)／渡邊寛子(福島県立盲学校)
  - ・協力者：浅川槇子(国文学研究資料館)／須藤圭(立命館大学)  
畠山大二郎(愛知文教大学)
  - ・企画運営総括：伊藤鉄也(国文学研究資料館)

## 橋本本『源氏物語』「若紫」を刊行

国文学研究資料館が所蔵する、鎌倉中期の書写と思われる『源氏物語』「若紫」を字母を忠実に再現する形の「変体仮名翻字版」で刊行しました。

『国文学研究資料館蔵 橋本本『源氏物語』「若紫」』(伊藤鉄也・浅川槇子編、新典社、2016年、¥1,400)

これは、『ハーバード大学美術館蔵『源氏物語』「須磨」』(伊藤編、新典社、2013年)、『同「蜻蛉」』(伊藤編、新典社、2014年)、『国立歴史民俗博物館蔵『源氏物語』「鈴虫」』(伊藤・阿部江美子・浅川槇子共編、新典社、2015年、7頁参照)を受けて、本法人が主体となって編集している成果物です。鎌倉時代に書写された『源氏物語』の写本が読める環境を、こうして地道に構築しているところです。今後とも、さらに継続しますのでご期待ください。



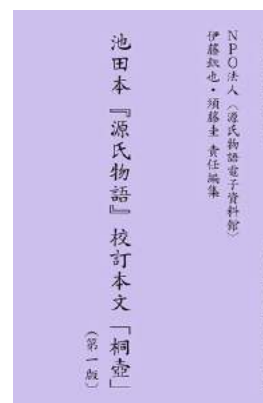
## 『源氏物語』池田本校訂本文(私家版)を配布中

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉が公開する成果物として、〈池田本『源氏物語』校訂本文「桐壺 第一版」(平成29年1月31日発行)を私家版として作成しました。

現在取り組んでいる池田本校訂本文の作成は《江戸期の源氏から鎌倉期の源氏へ》というスローガンの元に推進しているものです。70年にもわたって流布している江戸期の校訂を取り込んだ「大島本」から、心機一転、鎌倉期に書写された「池田本」で『源氏物語』を読むことを提唱したいと思っています。

今回の私家版を踏まえて、数冊の試行版を発行した後に、4・5年後には全10巻の『池田本「源氏物語」校訂本文』として世に問うことになると思います。

※所蔵機関および出版社の意向を配慮して、電子版の研究資料としてネット上に公開するのではなく、印刷による私家版(非売品)の冊子として試験的に配付することにしました。校訂本文の作成母体は、非営利活動ではあっても無償のボランティア活動ではありません。活動の継続のためにも、今後は実費による配布を検討しているところです。





## 【定款の変更】

本法人の定款変更の申請をし、平成28年4月に変更が京都市より認証されましたのでお知らせします。

### 【変更後】

(目的) 第3条 本法人は、『源氏物語』の本文に関連するあらゆる資料及び情報を、調査・収集・整理・修正・追補することを活動の原点とする。そして、その知的資産としての情報の維持管理を次世代に継承する中で、さらなる発展に資することを目的とする。併せて、『源氏物語』が幅広く理解されることを願い、国際的かつ社会的な日本文化の理解を深める活動も展開する。

### 【変更前】

(目的) 第3条 『源氏物語』の本文に関するデータベース化は、『源氏物語別本集成』と『源氏物語別本集成 続』の刊行を通して、約22万レコードのデータベースとして構築が進行しています。今も更新の手が加えられ、日々成長しているデータベースです。本法人は、『源氏物語』の本文データベースに関連するあらゆる資料及び情報を、調査・収集・整理・修正・追補することを活動の原点とします。そして、その知的資産としての情報の維持管理を次世代に継承する中で、さらなるデータベースの発展に資することを目的とする法人です。併せて、『源氏物語』が海外でも幅広く理解されることを願い、『源氏物語』のダイジェスト版の多言語翻訳や海外の研究者との懇談会も実施します。このような、国際的な日本文化の理解を深める活動にも取り組みます。

### 【変更後】

(特定非営利活動の種類) 第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (3) 国際協力の活動
- (4) 情報化社会の発展を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営、又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

### 【変更前】

(特定非営利活動の種類) 第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (2) 国際協力の活動
- (3) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営、又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

### 【変更後】

(事業) 第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
  - ① 『源氏物語』の新校訂本文により新たな研究及び読書環境を提供
  - ② 『源氏物語』に関する諸情報の集積・整備・公開
  - ③ 『源氏物語』に関連する学術出版や研究支援と資料の翻字・校正及びデータ入力代行
  - ④ 『源氏物語』の普及のための文化交流や関連物品販売
  - ⑤ 『源氏物語』を活用して国際的社会的に日本文化の理解を深める活動

### 【変更前】

(事業) 第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
  - ① 『源氏物語別本集成 続』等の学術出版の支援
  - ② 『源氏物語』に関する諸情報の整備と公開
  - ③ 『源氏物語』に関する国際文化交流
  - ④ 『源氏物語』に関連する研究支援と資料の翻字・校正及びデータ入力代行
  - ⑤ 『源氏物語』の普及のための講演会や懇談会及び勉強会や物品販売

### 【変更後】

(種別及び定数) 第12条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 4人～6人
- (2) 監事 1人

### 【変更前】

(種別及び定数) 第12条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人～5人
- (2) 監事 1人

## 第4回池田亀鑑賞授賞式

本法人が後援している池田亀鑑賞の第4回目が、平成27年6月27日に鳥取県日野郡日南町で開催されました。今回は、滝川幸司氏の『菅原道真論』（塙書房、2014年）です。会場の後ろに、池田亀鑑の自筆原稿を展示しました。

第1部は、受賞者である滝川幸司さんの記念講演会。

第2部は、ノートルダム清心女子大学の博士前期課程2年生の杉生瞭子さんの研究発表。

第3部は、伊藤が「鎌倉時代の『源氏物語』古写本を読み、池田亀鑑を追体験する」という実習講座でした。今回は下記で紹介している、国立歴史民俗博物館蔵「鈴虫」の巻頭を、みなさんと一緒に、字母に注意しながら読みました。



## 歴博本『源氏物語』「鈴虫」を刊行

代表理事の伊藤は、鎌倉時代中期に書写された古写本の影印版として、『ハーバード大学美術館蔵『源氏物語』「須磨」』（2013年）と『同「蜻蛉」』（2014年）を刊行しました。今回刊行した歴博本「鈴虫」巻は、ハーバード大学本とかつては一緒に伝わっていたと思われる写本です。日本に残った貴重な古写本なのです。

『国立歴史民俗博物館蔵『源氏物語』「鈴虫」』（伊藤鉄也・阿部江美子・浅川槇子編著、新典社、2015年、¥1,800）



特に今回は、この歴博本「鈴虫」巻をカラー版で刊行しました。これにより、日本の古典文化を体感できる鎌倉時代の古写本を、影印本として3冊も提供することが叶ったのです。本書では、前著2冊のハーバード本「須磨・蜻蛉」とは異なり、影印の下段に「変体仮名翻字版」による翻字を掲載しました。巻末の資料として、既刊の「須磨」と「蜻蛉」の「変体仮名翻字版」も収載しています。

今後とも本法人が主体となって開催する古写本を読む会のテキストなどで、この3冊を有効に活用していきたいと思っています。